

**抽出テーマ以外のテーマ(案)**

## テーマ⑤ 琵琶湖の環境保全と下水道

### 目標（12年後）

下水道の大切な役割である琵琶湖の水質保全に寄与すべく、流域別下水道整備総合計画に基づき引き続き安定した放流水質を保つとともに、新たな環境の課題にも柔軟に対応できる下水道を目指します。

### 施策メニュー

- 琵琶湖環境研究推進機構の枠組み等による研究推進
  - ・琵琶湖環境研究推進機構の枠組み等により、琵琶湖の環境と下水道についての調査研究を推進する。
- ノンポイント負荷削減のための関係部局との連携
  - ・ノンポイント負荷の発生源である、森林、農業、道路等の関連部局と情報共有しながら、他府県にも情報発信を行う。
- 新たな環境問題への対応
  - ・琵琶湖の全層循環やマイクロプラスチックなど、近年新たに表れた琵琶湖環境の課題について、関係機関と協議しながら下水道としての対応を検討する。

## テーマ⑥ 組織体制など経営基盤の強化

### 目標（12年後）

中期ビジョンが目指す下水道の実現に向けて、機動的な意思決定と執行、意欲と能力を持った人材の確保と育成ができる組織体制を構築するとともに、経営改革の取り組みにより、収入の確保と費用の抑制に努め、経営基盤の強化を図ります。

### 施策メニュー

- 下水道事業の魅力発信による人材確保
  - ・下水道事業の魅力を発信し、意欲と能力の高い若手職員を確保する。
- 公営企業としての組織体制の検討
  - ・機動的な意思決定や経費の執行、求める人材の確保、技術の継承と人材育成を実現するために、最適な組織体制を検討する。
- 費用に見合う収益の確保と下水道インフラを活用した増収
  - ・汚水処理費用に見合う使用料収入を確保しつつ、事業者も含めた下水道接続率の向上や、創エネ・下水熱・未利用地・バイオマス等を活用した新たな収入源の獲得などにより、下水道事業の安定化を図る。

## テーマ⑧ 県・市町間のパートナーシップ

### 目標（12年後）

各地域の課題を互いに共有し、これまで育ててきた良好な関係を維持・発展させ、お互いが足りないところを補完しあえる“真のパートナー”となり得る関係の構築を目指します。

### 施策メニュー

- 県・市町の人的交流の推進
  - ・勉強会等の交流の場を積極的に設け、情報の共有・交換を密にする。
  - ・人材の派遣等を推進する。
- 広域化・共同化の推進
  - ・施設の統廃合や維持管理業務の共同発注、災害時対応といったハード・ソフトの両面から、広域化・共同化を推進する。

## テーマ⑨ 異業種・異分野コラボレーション

### 目標（12年後）

産官学が連携を図り、他分野も含め施策を展開することにより下水道事業の可能性を拡大することを目指します。

### 施策メニュー

- 農林水産業等異業種・異分野との連携推進
- 大学等研究機関との連携による研究・技術開発

## テーマ⑩ 下水道の国際展開

### 目標（12年後）

琵琶湖で培った経験・技術を世界の水問題を抱える地域に展開し、“湖沼と下水道と言えば滋賀”と呼ばれるよう、世界における滋賀のステータス向上を目指します。

### 施策メニュー

- 琵琶湖モデルの展開による国際貢献
  - ・庁内、庁外の関連部局と連携を密にし、JICA事業などによる海外協力を推進していく。
- 海外展開で得た技術の国内還元
  - ・海外で使用される低コストでコンパクトな処理技術の、人口減少社会の将来の日本での適用可能性を検討していく。
- 県内企業の国際展開支援
  - ・商工部局等と連携し、ビジネスセミナーや協力事業を通じ、県内企業の国際展開の足掛かりの一助となるよう事業を推進していく。

## テーマ⑪ 下水道情報の発信と市民参加

### 目標（12年後）

下水道のなかった時代を知らない世代にも、下水道の効果、重要性が広く認識され、下水道事業について幅広く理解を得られている社会を目指します。

### 施策メニュー

- SNS等による積極的な情報発信
  - ・フェイスブックやInstagramなどのSNSを使用して、フレッシュな下水道の情報を県民に向けて発信する。
  - ・県や市町の広報誌などを活用し、下水道の正しい使用方法やお役立ち情報等を広く県民に発信する。
- 下水道サポーター制度の導入
  - ・下水道に興味を持ってもらえる県民を募り下水道サポーターとして登録し、意見交流会やメールマガジンにより、より深い理解者を増やすことを検討していく。
- 下水道市民科学の導入
  - ・地域の団体（学校やNPOなど）と自治体が協働し、市民参加による下水道の調査研究を推進する。